

西之島 地形判読図

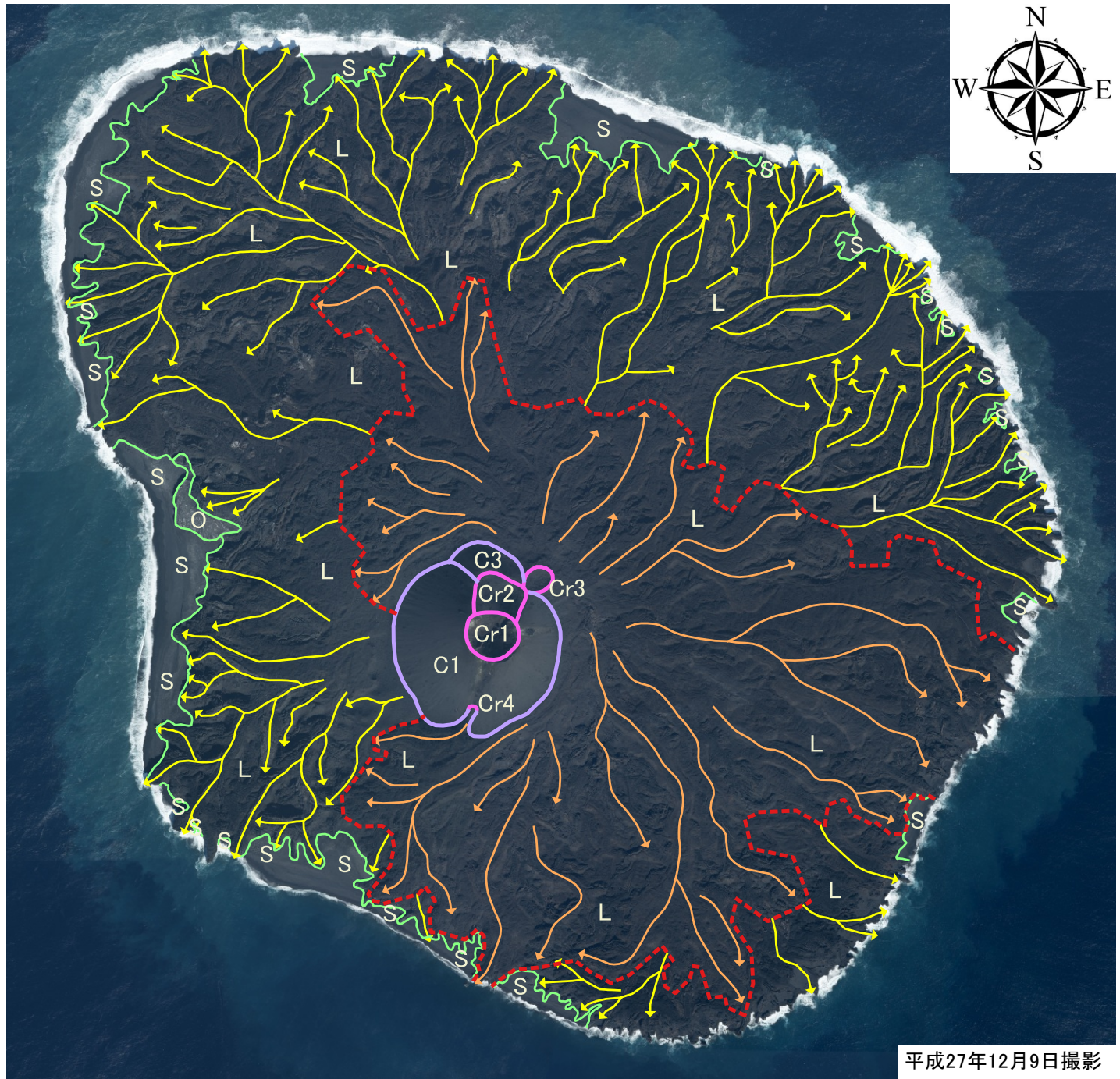
凡例(分類記号)

Cr1~4: 火口
 C1,C3: 火砕丘
 L: 溶岩流
 O: 旧陸部
 S: 砂州

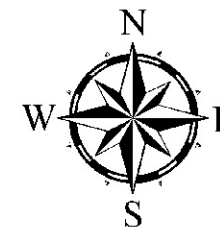
凡例(ライン)

- 火口(平成27年12月)
- 火砕丘(平成27年12月)
- 新溶岩流(平成27年7月~12月)
- 旧溶岩流(平成27年7月以前)
- - - 新旧溶岩流の境界線
- 地形界(平成27年12月)

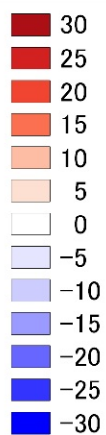
0 100 200 300 400 500 m



西之島 地形変化図



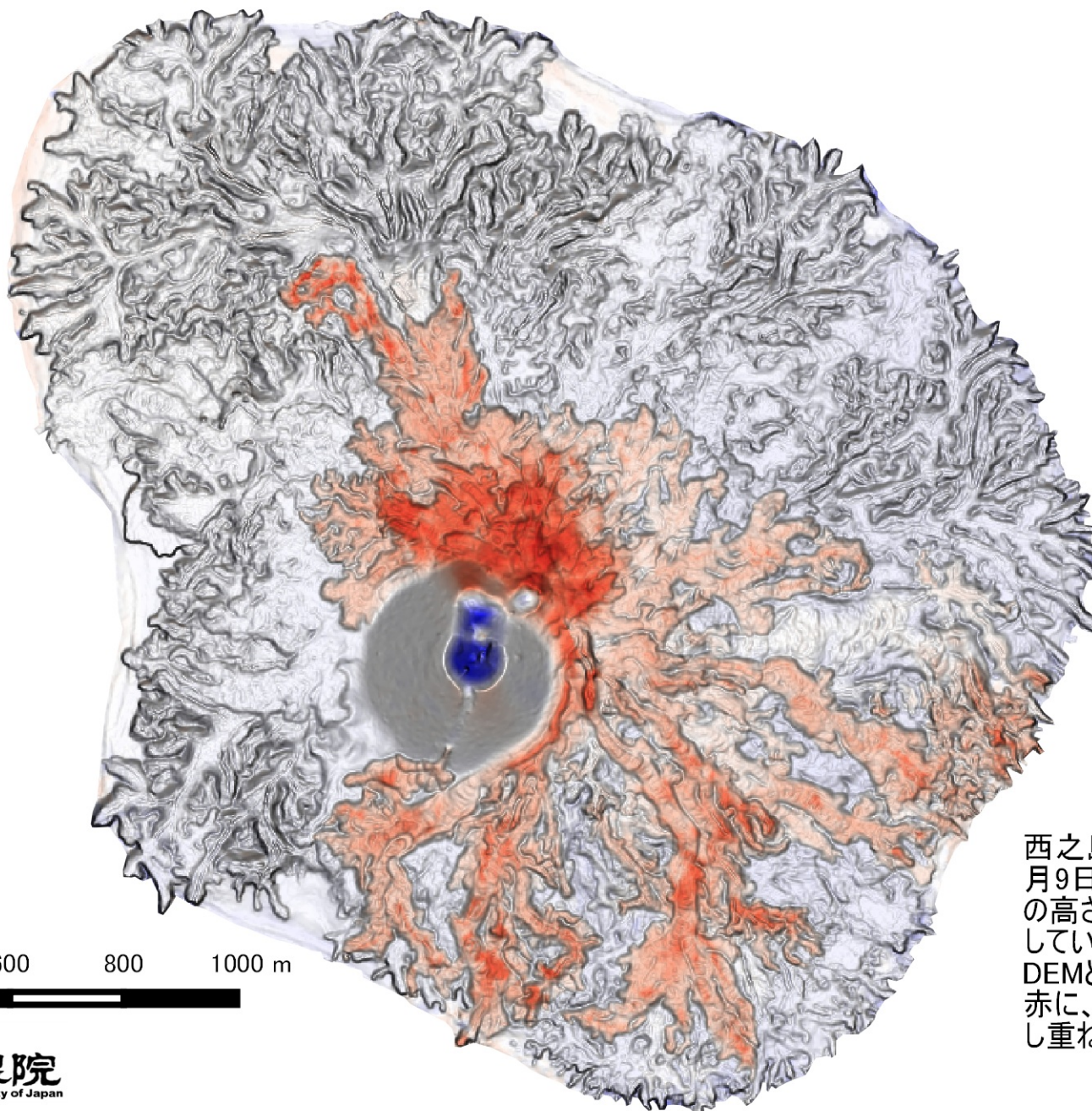
凡例



7月28日時点に対する
12月9日時点の地表面
の高さの差(m)

0 200 400 600 800 1000 m

西之島地形変化図は、12月9日時点のDEM(地表面の高さ)を使用し地形を表現しています。また、7月28日のDEMと比較して高い場所を赤に、低い場所を青に着色し重ね合わせています。



平成 25 年からの西之島噴火による地形の変化について (第九報)

平成 25 年 11 月 20 日に西之島の南東約 500m の海上で新島の形成が確認され、その後も噴火は継続し、西之島と一体となった。

平成 27 年 12 月 9 日に撮影した空中写真の判読及び地形変化図を参照して地形判読図を作成した。

地形判読により判明したことは以下のとおりである。

1. 平成 27 年 7 月以降に噴出した溶岩流

火砕丘 (C1) 北東にある火口 (Cr3) 及び南方にある火口 (Cr4) から溶岩が噴出し、溶岩流は西方を除く方向へ流下し、東方及び南方の一部で海域まで到達した。

2. 火砕丘変化と火口の拡大、新火口の形成

火砕丘 (C1) の火口 (Cr1) が拡大している。その北に隣接する火口 (Cr2) から噴出した火砕物によって火砕丘 (C3) が形成されている。北東山麓に存在していた火砕丘は火口 (Cr3) から噴出した溶岩流により消滅した。また、南方中腹に新たな火口 (Cr4) が形成され溶岩流が流出している。